

令和6年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・丁寧に細かく説明をすることで、児童が実践し、正しく道具を扱えるようになってきている。
- ・作品や制作を提示しながら説明をすることで、児童が理解しやすくなり、見通しをもって制作できるようになってきている。
- ・昨年度に比べて、児童の授業規律がより定着してきているため、集中して作品制作に取り組めるようになってきている。

(2) 課題

- ・正しく道具を扱えない児童がいる。低学年から道具の正しい使い方を指導するとともに、繰り返し指導を積み重ねて、定着させていく必要がある。
- ・説明を集中して聞くことができないため、制作方法がわからない児童がいる。制作手順や注意点を黒板に示す、個々に声かけをするなどして、学習に取り組める環境を整える必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低・中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・はさみや木工用ボンドの使い方などを丁寧に指導することで、正しく扱えるようになってきている。絵の具セットは、正しくない扱い方をしてしまう児童もいる。	・自分の決めたテーマに沿って、大きく表すことができるようになってきている。小さく表現してしまい、細かすぎて思うように作れなかったり、作品の一部が壊れてしまったりする児童もいる。	・制作に取り組む時間と、友達と相談したり話したり、鑑賞したりする時間をしっかり分けて確保することで、見通しをもって集中して制作に取り組めるようになりつつある。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・中学校でのポスターカラーの使用に向けて、水彩絵の具の正しい使い方の確認や、水分量と塗り方を意識させながら制作したため、ていねいに取り組めるようになってきている。 ・彫刻刀は安全に正しく扱えるよう指導を進めたが、慣れてくるにつれ、正しくない使い方をしてしまう児童も散見された。	・対象の形をしっかりとらえて表したり、色の関係を意識しながら配色し、大きく表したりすることができるようになってきている。 ・対象の形をとらえられず、思い込みで表してしまったり、小さく表わしてしまい、細かすぎて思うように表せなくなったりする児童もいる。	・制作に取り組む時間と、友達と相談したり話したり、鑑賞したりする時間をしっかり分けて確保することで、見通しをもって集中して制作に取り組めるようになりつつある。

2 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・はさみやのりなどの正しい使い方について、ポイントを掲示するなどして繰り返し指導し、身に付けられるようにする必要がある。 ・絵の具道具やカッターなど、小学校で新たに使用する道具については、使い方や安全指導を一つ一つ丁寧に指導する必要がある。	・自分の発想を表現しやすいように、見本を用意したり、よい表現を共有したりする。 ・表現に迷う児童には個別に指導を行う。 ・作品の鑑賞については、めあてに基いた観点を意識させながら、よさを見付けさせていく。	・児童が、意欲的に活動できるように導入でのわくわく感を大切にする。また、どのように取り組めばよいかの、手順や完成の見本などを掲示し、見通しをもって取り組めるよう工夫する。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童が安全に正しく道具を扱えるよう、道具の使い方やポイントを丁寧に説明し、授業ごとに安全指導を徹底する。使い方が間違っている児童には、その都度指導を行う必要がある。	・自己の表現を十分に表すことができるよう、制作する上での注意点を事前に説明し、黒板に掲示する。 ・一人一人の児童が自信をもって表現できるよう個別指導を行い、鑑賞のルールを守れるようにする。	・児童が安心して主体的に安全に取り組めるよう、図工の約束を示し、守れるようにする。 ・見本作品や制作方法を掲示することで、児童が見通しを持って制作できるよう工夫する。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童が安全に正しく道具を扱えるよう、道具の使い方やポイントを丁寧に説明し、授業ごとに安全指導を徹底する。使い方が間違っている児童には、根気強く指導を行う必要がある。	・自己の表現を十分に表すことができるよう、制作する上での注意点を事前に説明し、黒板に掲示する。一人一人の児童が発想を広げられるよう個別指導を行い、鑑賞のルールの徹底を図る。	・児童が安心して主体的に安全に取り組めるよう、図工の約束を示し、徹底を図る。作品や制作方法を掲示し、見通しを持って制作できるよう工夫する。